

古典における CLIL (Content and Language Integrated Learning) の提案

——漢文『新豊折臂翁 戒邊功也』から考える平和学習実践の省察より——

札 埜 和 男

1 はじめに

筆者(実践者)は白居易の『新豊折臂翁 戒邊功也』を京都教育大学附属高等学校(以下「附属高校」と称す)の古典の授業で採り上げ、その学びを平和学習に結び付けることを試みた。しかし結果的に実践としては課題が残った。本実践論文の目的としては、その課題を省察するとともに改善の方法を示すことである。そのヒントを後述する外国語学習法の CLIL (Content and Language Integrated Learning) に見出し、古典学習における CLIL の活用について考えてみたい。

本実践は、筆者が附属高校の国語科教員として二〇一七年一月から三月にかけて、二年生文系クラス(女子二十七名、男子十四名計四十一名)を対象に「古典探求Ⅰ」(二単位)において行った授業である。「古典探求Ⅰ」は金曜一・二時間連続の授業で、教科書を

使用せず、内容としては大学入試用の問題集の演習と解説を行うことであった。筆者は二時間連続を利用して一時間を演習に充て、残り一時間を自由に行う形にした。その後の三・四時間目が二時間連続で日本史の授業であることを活かして、半日かけて日本史教員とフィールドワークを実施したり、ゲスト授業を積極的に行ったり、「笑い」というテーマで古典を楽しんだり、問題演習に特化せずに多様な授業実践を試みた。その流れの中で、最後を締め括る授業として漢文での平和学習を試みたのである。「戦争と平和」に関しては生徒に学ばせたい実践者自身のテーマの一つではあるが、二〇一六年にトランプ政権が誕生し世界に戦争の緊張が走ったことや、同時期に二年生現代文でメデイアテラシーと戦争の関係を扱っていたことも背景にある。また漢文が決して過去の作品として存在するのではなく、高校生を含めた今を生きる我々に関わる文

学であることを意識させる授業をしたいとも考えた。

2 教材について

平和を考える教材ということで、教科書所収の杜甫や墨子も一案だったが、谷口匡教授（漢文学）に相談した折にご紹介いただいた教材の一つであり、また難易度を考えて相対的に読みやすいと思われる、白居易の『新豊折臂翁 戒邊功也』を選んだ。漢詩・漢文教材研究会編（一九九五）によれば、玄宗皇帝が天宝の時期に西南少数民族に強硬的な政策を取った時期の戦争の話であり、二十万の兵が南方の戦地で死亡したといわれる。このような歴史的事実を作者である白居易が直接語るのではなく、老人を登場させて戦争の悲惨さを語らせる構成になっている作品であるとされる。八〇九年白居易三八歳の作であり、新樂府五十首のうち第六首目にあたり、「戒邊功也」が詩の主旨になり、現実批判をねらいとした「諷諭詩」といわれる詩であるという。「文学のための文学ではなく、詩人の役割は社会の現実をしつかり見据え、それを為政者に伝え、

反省の材料とし、よりよい政治の実現を目指す」（漢詩・漢文教材研究会編一九九五493頁）ことを意図した詩であり、授業の趣旨に適用と考えた。

3 授業の概要

（1）全体の流れ

全体の授業の流れとしては次のようになる。講演とワールドカフェ方式については後述する。

第一回 一月二十日 本文の読解（二時間）

第二回 一月三十一日 講演（一時間）

第三回 二月三日 本文の読解（二時間）

第四回 二月十七日 本文の読解（二時間）

第五回 三月三日 ワールドカフェ方式の発表

（二時間）

（2）漢文の読解

本文（上記白文・下記書き下し文）は次の通りである（漢詩・漢文教材研究会編一九九五に基づく）。

新豊の臂を折りし翁 辺功を戒むるなり

- | | | | | | |
|----|---------|--------------------|----|---------|-------------------|
| 1 | 新豐老翁八十八 | 新豐の老翁八十八 | 17 | 大軍徒涉水如湯 | 大軍徒渉するに水湯の如く |
| 2 | 頭鬢眉鬢皆似雪 | 頭鬢眉鬢皆雪に似たり | 18 | 未過十人二三死 | 未だ過ぎざるに十人に二三は死す |
| 3 | 玄孫扶向店前行 | 玄孫に扶けられて店前に向かひて行く | 19 | 村南村北哭聲哀 | 村南村北哭声哀し |
| 4 | 左臂憑肩右臂折 | 左臂は肩に憑り右臂は折れたり | 20 | 兒別爺娘夫別妻 | 兒は爺嬢に別れ夫は妻に別る |
| 5 | 問翁臂折來幾年 | 翁に問ふ臂折れて來のかた幾年ぞ | 21 | 皆雲前後征蠻者 | 皆云ふ前後蠻を征する者 |
| 6 | 兼問致折何因緣 | 兼ねて問ふ折るを致せしは何の因緣ぞと | 22 | 千萬人行無一迴 | 千万人行きて一の廻るもの無しと |
| 7 | 翁雲貫屬新豐縣 | 翁は云ふ貫は新豐県に屬し | 23 | 是時翁年二十四 | 是の時翁の年二十四 |
| 8 | 生逢聖代無征戰 | 生まれて聖代に逢ひて征戰無し | 24 | 兵部牒中有名字 | 兵部の牒中に名字有り |
| 9 | 慣聽梨園歌管聲 | 梨園歌管の声を聴くに慣れ | 25 | 夜深不敢使人知 | 夜深けて敢へて人をして知らしめず |
| 10 | 不識旗槍與弓箭 | 旗槍と弓箭とを識らざりき | 26 | 偷將大石捶折臂 | 偷かに大石を將つて鎚ちて臂を折る |
| 11 | 無何天寶大徵兵 | 何も無く天寶大いに兵を徵し | 27 | 張弓簸旗俱不堪 | 弓を張り旗を簸ぐ俱に堪へず |
| 12 | 戸有三丁點一丁 | 戸に三丁有れば一丁を点す | 28 | 從茲始免征雲南 | 茲より始めて雲南に征くを免かる |
| 13 | 點得驅將何處去 | 点し得て驅り將ちて何処にか去く | 29 | 骨碎筋傷非不苦 | 骨碎け筋傷るるは苦しからざるに非ず |
| 14 | 五月萬里雲南行 | 五月万里雲南に行く | 30 | 且圖揀退歸鄉土 | 且く図る揀び退けられて郷土に |
| 15 | 聞道雲南有瀘水 | 聞道く雲南に瀘水有り | | | |
| 16 | 椒花落時瘴煙起 | 椒花落つる時瘴煙起こる | | | |

婦るを

てしを

- 31 此臂折來六十年 臂折れてより來來六十年
32 一肢雖廢一身全 一肢廢すと雖も一身全し
33 至今風雨陰寒夜 今に至るまで風雨陰寒の夜
34 直到天明痛不眠 直ちに天明に到るまで痛みて眠
られず
35 痛不眠 終不悔 痛みて眠られざるも終に悔いず
36 且喜老身今獨在 且く喜ぶ老身の今独り在るを
37 不然當時滬水頭 然らざれば当頭
38 身死魂飛骨不收 身死し魂孤にして骨収められず
39 應作雲南望鄉鬼 応に雲南望郷の鬼と作り
40 萬人塚上哭呦呦 萬人塚上哭して呦呦たるべし
41 老人言 君聽取 老人の言 君聽取せよ
42 君不聞開元宰相宋開府 君聞かずや開元の宰相宋
開府
43 不賞邊功防黠武 辺功を賞せずして黠武を防ぎし
を
44 又不聞天寶宰相楊國忠 又聞かずや天寶の宰相楊
國忠
45 欲求恩幸立邊功 恩幸を求めんと欲して辺功を立

みを生ず

- 46 邊功未立生人怨邊功 辺功未だ立たざるに人の怨
47 請問新豐折臂翁 請ふ問へ新豐の臂を折りし翁に
第一回では何も言わずに1行目から13行目までの白
文をA4用紙に印刷して配布し、どのような内容かま
ず個人で考えさせた。タイトルについては伏せておい
た。その後座席をもとにこちらで約四名ずつの班を作
らせ、ミニホワイトボードを各班に一枚ずつ渡して粗
筋を書かせ、黒板に貼らせて発表させた。生徒が一番
頭を悩ませ且つ勘違いしていたのが、「臂」という文
字であった。「右」や「左」と一緒にについていることや、
「腎」という漢字に字形が似ていることにひきずられ
たせいか、これを「腎臓」と解釈する班が続出した。
それに「折」という漢字が出てくるので、右の腎臓が
傷つけられたという解釈や、左の腎臓が傷ついたと
いった珍訳が出てきた。発表を一通り終えてから、「腎
臓」という意味ではないことを最初に確認して、白文
を頼りに一行ずつやりとりをしながら読み方と意味を

確認していった。白文を班で考えさせたのは初回だけで、次回以降は白文だけを示して読み取るように発問していき、凡その意味が読み取れた時点で、読み方を確認していく方法を取った。第二回以降の読解は時間的に余裕がなく、急いで行なった感はある。

(3) 講演

途中に戦場ジャーナリストである西谷文和氏の講演を聴かせた。西谷氏はフリーランスのジャーナリストでNPO法人「イラクの子どもを救う会」代表を務める。イラク、アフガニスタン等の戦地を精力的に取材し、メディアへの出演も数多い。二〇〇六年度「第12回平和・協同ジャーナリスト基金大賞」を受賞し、学校現場での講演実績も豊富で、附属高校では筆者が赴任して以来毎年お招きした。講演は「古典探求」を対象に企画したのではなく、他に担当していた現代文三講座で「メディアリテラシー」をテーマに学習しており、西谷氏には「戦争とメディア」のテーマで話してもらった。しかし「古典探求」も戦争をテーマとするゆえ便乗する形で生徒に聴かせたわけであ

る。西谷氏は戦場での取材体験を元に撮影した映像を見せながら、「戦争は嘘から始まる」として、世界情勢を現場の視点で分析して話された。この講演は「古典探求」の生徒らにとっても衝撃的だったようである。その衝撃は次の生徒の感想からもうかがえる（傍線は筆者）。

「ジャーナリストの話聴くと知った時、授業が潰れてラッキーくらいにしか思っていなかった。しかしテレビで放送されることのないリアルな現状に目を釘付けにされた。足がなくなつて蠅がたかっている女の子なんて見たことも想像したことなかった。ペンの形の爆弾があることも知らなかった。家の無い人が何万人もいることは知っていたが、どんな風なのかは知らなかった。何も知らなかった。戦争が始まったのは嘘が原因なんて他の人は教えてくれないことだ。今まで宗教が原因だと思っていたから、日本は大丈夫だろう、と思っていたが、はめられたらいつ戦争になつてもおかしくないんだなと思った。いつも感想文を書く時はきれいな言葉を並べておけば埋まるので楽なのだが、本当に心に響いた時に限って言葉が出て来ない。

日本は平和だな、としか思っていなかった自分が恥ずかしかった。日本は報道規制が多すぎて事実を伝えられていない。そのせいで私みたいに「今は平和」と思っている人が増える。何かできることはないだろうか」

この生徒の「何かできることはないだろうか」という思いは他の生徒も述べている。そして「平和を祈るだけでは何の解決にもならない」と気づいた感想も複数あった。

「本当に今日の授業に感謝します。自分は世界情勢に人よりわかっているほうだと思い込んでいました。でも私は無知でした。『祈っているだけでは戦争は終わらない。何が原因でどういうプロセスから成り立ち、どういう解決法があるのか考えるのが戦争を終わらせるための手段だ』という西谷さんの言葉がずしんと心にのしかかりました」

「様々な現実を見せられて自分が逃げていたことに気づいた。平和を祈るという綺麗事を言って自分が何かをした気になっていた。西谷さんのお話を聴いて自分が何のために政治や経済、歴史を学んできたのか考えさせられた。何もできないから祈るのであるから、

学び行動することが出来る私たちが今すべきことは祈ることではない」

戦争が嘘から始まる、ということばにも心を動かされたようである。

「戦争はほとんどが嘘から始まっている」この言葉が最も強く印象に残った。戦争をすれば儲かる人たちがいる。もちろん欲望は人間の性であることはわかっている。しかし欲望のためにたくさんの方が傷つき命を奪われることは許されない。私たちは簡単に情報に流される。そのせいでたくさんの方を傷つけることに知らないうちに加担しているのかもしれない」

現代の国際情勢に思いを馳せた感想もあった。トランプ大統領の就任を念頭に置いたように思われる。

「平和と一概に言っても難しいものだなと思いました。戦争がなければ平和というのは当然だと思えますが、戦争がないことは大前提にしても、どこからの範囲が平和と言えるのか、難しい問題だなと思います。ある一人が平和だと思えても社会であまり好ましくないことが起こっている時、それを平和と言えるのか。例えば話題になっている米大統領の移民や難民に対す

る排他的な行爲を考えてみるとこれは平和とは言えない気がします。全員が平等であるからこそその平和ではないかと思いました」

「国と国であつても国の中であつても意見が違ふ二つのものが何よりも大切にすべきことは相手への敬意であつてそれを以て対話することが世界平和への大きな一歩になると思う」

(4) ワールドカフェ方式による発表

第五回は生徒による発表授業とした。四名ほどで班を構成し、「平和」を表現した漢文の一文や一節を選び出し、なぜそれを選んだのか、その文(章)と訳、選んだ理由を模造紙に書き出す。それをワールドカフェ方式で発表するのである(事前に課題については予告しておいた)。この方式はポスターセッションの方式で、たとえば四名ならば、一人がその場に残り他班からやってくる人にポスターの内容を説明し、他のメンバーが他班のポスターの所に分かれて聴きに行く。その役割を交替しながらすべての班の発表を聴くという形であり、他の班がどんな内容であるか戻って

きてから報告しあう。もちろん、他班の説明を聴く際は質問も行い、説明役はその質問に応じる任を負う。発表時間の短縮と効率化を狙った方法でもある。

一通り全ての発表を聴き終えてから、班の中で「一押し、二押し、捨て難し」を相談して選び、シールをそれぞれ「赤、青、黄」として貼りに行かせた。全班の発表内容を次に示すとともに、点数を付記する(赤を3点、青を2点、黄を1点とした合計点)。太字が作品で()内が出典である。出典の後の○数字がシールの合計得点である。選んだ理由や意味の明記していない班や古文から選んだ班もある。生徒の表記をそのまま引用する。

(班名なし)

善くする者は果たして已む。以て強いるを取らず。果たして矜ることなく、果たして驕ることなく、果たして已むを得ずとす。これを果たして強いるなしと謂う。物は壮なればすなわち老ゆ。これを不道と謂う。(老子)第三十章「道を以て人生を佐くる者は、兵を以て天下に強はず」より。⑦

(選んだ理由) ここでは道を弁えている人は戦争に勝つ

たとしても、やむを得ずして勝ったと捉えたと述べている。しかし、現在では無理に理由をこじつけて争いを正当化しようとするなど、これとは逆のことが起こっているから。

〔いわき班〕

人之際遇有奇有不齊而能使己独齊乎

他人の境遇を見ると幸せな人も不幸な人もいる。どうして自分だけを幸せにしておけようか。〔葉根譚〕前集53) ⑧

（選んだ理由）自分の事だけを気にしては平和は成り立たない。

〔フッドファイター〕

乃知兵者是凶器、聖人不得已而用之（『戦城南』）⑩

（意味）これでわかったことは、武器というものは不吉な道具、聖人はやむを得ない時しか使わない。

〔TSUNAYA〕（はつか）

うらみつる 風をしつめて はせを葉の 露を心の

玉みかくらん（本能寺所蔵 信長和歌詠草）①

（意味）誰に何と言われようと、それに耐え忍び、今の世の中にはびこる悪い習慣、嘘、戦争、暴力をむ

さばる者たち、そのような乱世を鎮めて平和な世の中が訪れるように、自らの心を磨こう。

（選んだ理由）織田信長の力強い印象とは異なり、平和を願う様子が表れており今回のテーマに適していると思ったから。

〔やないもシスターズ〕

君がため 惜しからざりし 命さへ 長くもがなと思ひけるかな（百人一首 藤原義孝）④

（意味）あなたに会うためなら惜しいとは思わなかったこの命ですが、あなたと会えた今では、いつまでも生きていたいと思っています。

（理由）家族愛

〔流石杜甫〕

信知生男惡 反是生女好 生女猶得嫁比鄰 生男埋沒

隨百草（杜甫『兵車行』）⑤

（意味）本当によく分かりました。男を生むのは悪く、返って女を生む方が良いと。女を産めば近隣に嫁に出すこともできますが、男を産めば戦に駆り出され、戦死し、その遺体が地に埋もれ雑草が生えるままになるのですから。

〔八木班〕

子爲政、焉用殺、子欲善而民善矣、君子之德風、小人之德草、草上之風必偃。〔論語〕「顔淵」より ①⑦

〔意味〕あなたは政治を行うのにどうして殺すんですか。あなたが善い行いをしようとされるなら、民も善くなります。君子の徳は風です。小人の徳は草です。草はその上に風が加われば必ずなびきます。

〔理由〕今のトランプ政権に当てはまると思ったから。

〔アリエル班〕

有老人、含哺鼓腹擊壤而歌曰、「日出而作日入而息。鑿井而飲耕田食。帝力何有於我哉。〔十八史略〕五帝」

⑧

〔意味〕老人は口の中に食べ物をはおぼり、腹鼓みをうち、足で地面をたたいて歌っていた。「日が昇ったら仕事をし、日が沈んだら休む。井戸を掘っては水を飲み、畑を耕しては食事をする。帝の力など、どうして私たちに関係があらうか、いやない」

〔理由〕平和で幸せな世の中を楽しむさま。

〔アイランド〕

督以正、義其名、必務寬吾劬、信吾師、以此授諸侯之師、

則天下無敵矣。其為下不可勝數也。此天下之利、而王公大人不知而用、則此可謂不知利天下之巨務矣。〔墨子〕より ⑬

〔意味〕他国諸侯に勧めるのに正道を以てし、義を好むの名をたて、必ず自国の衆民に寛大であり、自国の軍隊を信実なるものとなし、このみちを以て他国諸侯の軍隊を援助すれば、天下無敵である。そして天下の利益となることは数え切れない。このように天下の利益であるのに、当今の王公大人はこのみちを用いることを知らない。これでは天下に利益をもたらす重大なる任務を知らないと言わなければならない。

〔選んだ理由〕現在の戦争が起きる原因について講演で考えさせられたので、先人が戦争の起きる原因やその抑止についてどう考えていたのかを知りたいと思い、「兼愛」で有名な墨子の論に触れたいと思ったため。

〔WADA〕

車轆轤 馬蕭蕭 車は轟き、馬は嘶く

行人弓箭各在腰 出征兵士の腰には弓と矢

耶娘妻子走相送 父母や妻子は走って来て見送る

塵埃不見咸陽橋 舞い上がる埃に咸陽橋も見えない

牽衣頓足攔道哭

衣にすがり地団駄踏んで道を遮って

泣く

哭声直上干雲霄

泣声は真直ぐに上り大空の果を突き

刺す

道旁過者問行人

道の傍らを通り過る者が出征兵士に

問えば

行人但云点行頻

徴兵がしきりにあるのです、と言う

ばかり

或從十五北防河

或る者は十五歳から北方黄河を守り

便至四十西營田

或る者は四十歳になっても西方で屯

田兵となっている。(杜甫『兵車行』

より) ②

(理由) 世界史授業で紹介してもらい印象に残っていたから。

出典としてはビジネス書としてよく取り上げられる

『菜根譚』や古歌から選択した班もあったが、凡そ杜甫、墨子、老子、『論語』といった高等学校の古典教材の範囲から採っている。最も支持を集めたのは「八木班」(①点)であるが、取り上げた理由が「トランプ政権

に当てはまる」としており、時期的に関心を抱く生徒が多かったであろう。次点は「アイランド班」(⑬点)である。「戦争が起きる原因について講演で考えさせられたので、先人が戦争の起きる原因やその抑止についてどう考えていたのか知りたい」と取り上げた理由としてあるので、講演を聴いて同様の問題意識を持った生徒が少なからずいたことと思われる。(写真①②はいずれもワールドカフェの様子)。



①



②

4 実践の課題

今回の実践の一番の反省は、白居易の漢詩学習と、講演・ワールドカフェ方式の発表に関連が見られないことである。講演とワールドカフェ方式の発表内容に

はまだつながりが見られるが、とりわけ漢詩とこれら二つの取組みとの間には生徒の感想や発表を見る限り、つながりが余り見られない。漢詩の学習だけが「独立」している。生徒は西谷氏の講演を聴いて、自分たちができることはないかと考え、戦争の起きる原因が宗教ではなく、私利私欲より出た嘘から始まることを学んだ。自分にできることや戦争が起る原因を求めた姿勢が、現状への批判(班名なし・TSUNAMI・八木班)、戦争勃発や平和成立の要因(いわき班・アイランド)を示す各発表への賛同(得点)に現れている。過去と現代の違いはあっても、漢詩の内容も戦争や平和をテーマにしている点は同じである。しかし、生徒は漢詩の学習はあくまでも教室の中の学習として留める一方で、講演に対してはリアリティや当事者意識を感じ、解決策まで考えようとしている。漢詩の学習をその後の講演や発表に繋げ、過去の出来事を読んで当事者性を抱いて考えさせるようにするのはどうしたら良かったのであろうか。

5 CLIL (クリル) について

筆者は解決のヒントを、外国語の学習法である CLIL (Content and Language Integrated Learning の略称。クリル) に見出した。CLIL とは「教科科目などの内容とことばを統合した学習」(笹島二〇一一10頁)であり、統合することで「ことばをうまく使って、学習する内容とことばの学習の両方を効果的に同時に促進しよう」と意図した学習のこと」(笹島二〇一一11頁)をいう。簡単な例でいえば日本の子どもが英語で理科や世界史を学ぶ、大学生が中国語で中華料理を学ぶなども CLIL の一種である。内容を指導しながらことばを教えるので、ことばを学ぶ動機にもなり、学ぶ意欲を引き出すことができるという。和泉は次のように述べる。「今日は関係代名詞を勉強します」と言って授業を始めたなら、一体どれだけの生徒が、目を輝かせて興味を示すだろうか。決して関係代名詞を教えるなどと言っているわけではないが、言語学専攻の学生でもない限り、関係代名詞のみに興味・関心をそえられる学生は少ないということである。それよりも、今日

の授業ではどんな話題が取り上げられるのかといったことの方が、より生徒の興味・関心を引くことができるだろう」(和泉二〇一六79頁)。

和泉によると、CLILの特徴として4つのCがある。Content (科目やトピック)、Communication (語彙・文法・発音などの言語知識や、読む、書く、聞く、話すといった言語スキル)、Cognition (さまざまなレベルの思考力)、Community または Culture (共同学習、異文化理解、地球市民意識)である(和泉二〇一六75頁)。

CLILの「4つのC」

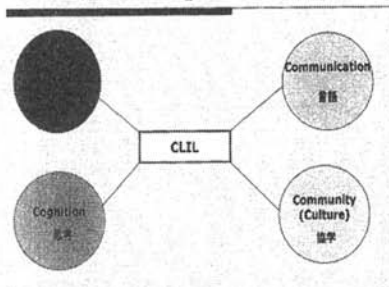


図1 CLILの4つのC

図1は池田真「CLIL (Content and Language Integrated Learning) の方法論」5頁による (<http://www.ciltjapan.org/2018年三月二十八日閲覧>)。

4つのCが揃うことがCLILの条件となる。その関連について述べると「語るべき内容 (content) があるからこそ、他者に伝える手段としての言葉 (communication) が必要になる。また、考えるべき内容があるからこそ、思考 (cognition) が刺激され、広がり深まりを増していく。さらに、他者との交わり (community) があるからこそ、コミュニケーションが重要になってくるのである」(和泉二〇一六76) という。

6. 今回の古典授業におけるCLILの活用

今回の古典における漢詩の授業をどう改善するか、CLILの「内容」「言葉」「思考」「他者との交わり」をどのように統合していくかという視座で考えてみる。

今回「漢詩→講演→発表」という順序で行ったが、「講演→漢詩→発表」という順序で実施した方が生徒の意欲をより喚起できたと考える。和泉が挙げている「関

係代名詞」の例のように、漢詩を読むことを示して興味を示す学生は相対的に少ない。ゆえに西谷氏の講演を聴いた上で感想を書かせ、講演内容と生徒の反応を生かしながら漢詩の内容と結びつけて授業を組み立てていくほうが生徒の反応を引き出せたように思われる。生徒らが引きつけられた「戦争は嘘から始まる」という講演の内容は、漢詩の内容にも該当する箇所がある。漢詩の中で登場する楊国忠は七万の大軍を与えて派遣したものの、軍が全滅した敗戦を隠して、偽って玄宗に戦勝を報告し、その嘘がより人的被害を拡大させたといわれる。戦争にフェイクは付き物である現代の事象を生徒は古代の漢詩でも確認できるのである。戦争は儲かるということで、イラクやアフガニスタン、シリアの一般市民も為政者が私利私欲で起こした無益な戦争のために犠牲になっている。自ら体を傷つけなければ命を守れない状態にまで老人を追い込んだものは何かという発問によって、その構図は漢詩の世界にあっても何ら変わらないことを読み取ることができるだろう。講演を契機に当事者意識が芽生えた生徒らは、どうしたら戦争を解決できるのか考え始めた

が、講演内容を漢詩の内容に関連づけていくことで、もし自分がこの漢詩に登場する老人の立場だったらどう生きたのか、あるいはこの時代であればどのように生きざるを得ないのか考えさせることで、生徒も漢詩からリアリティを感じ取ることができるようになるのではなからうか。

漢詩を学ぶという意識ではなくて、漢詩を通じて戦争と平和を考えるとという仕組みを初めから意識付けることで、逆に生徒は漢詩やその内容に「出会う」可能性を持つかもしれない。講演の内容を漢詩の授業で裏付けながら進むことで、生徒の認知(cognition)も実際にいった授業の時よりも広がりや深まりを持つことと思われる。その上で平和や戦争をテーマにした漢文を見つけ出すという課題を与えたら、また今回とは違う選択になったのではないか。語るべき内容というのは、現代のことではなく漢文で表現されている内容(content)を見つけ出すことになるので、これはCLIL的にいえば、外国語で文献を探す活動と同じになる。CLILの発想からすると「使うことなしにどうやって学べるのか」「使うからこそ学びが進む」となるのであ

る。そういった活動を班のメンバー (community) で相談しながら準備し、ワールドカフェ方式によって認知した内容を他者に伝えることば (communication) に変換していくことになる。

以上の点を踏まえて、今回の授業を構成し直した場合、①講演②講演の感想の共有③講演内容と共通する箇所を意識した漢詩の授業読解④講演内容と比較しながら漢詩の授業で考えたことのまとめ⑤感想の共有⑥戦争と平和をテーマとした漢文の探索⑦発表⑧相互批評、の流れになるだろう。

7 おわりに

最後に古典学習への CLIL の活用についての考えをまとめておきたい。古文や漢文に使われることばと、自分たちが使うことばとに連続性が感じられない生徒にとって、古典のことばは「外国語」同様であろう。そういった生徒はこれまでの経験から古典へ苦手意識を持ちがちのように思われる。古典への苦手意識を取り除く方法として CLIL の発想を取り入れることは授

業改善のヒントになるように思われる。

たとえば筆者自身が実践してきたことだが、鴨長明の『方丈記』『大地震』は、古典として読むだけでなく、科学的に地震を考える記述として読むことができる。筆者はこれまで「大地震」を地震の研究者と協同で読み解く授業を四回実施した (札埜 2011)。また同じく『方丈記』の「養老の飢饉」を使って当時の社会思想や福祉政策を日本史の教員の協力を得ながら読み進めたこともある (札埜 2014)。これらの実践を行った当時は CLIL を意識したこともなく CLIL の存在自体知らなかったが、今から考えると CLIL の理論でこれらの実践を捉え直すことができる。『大鏡』の「花山院の出家」にも安倍晴明が天変地異を観測した場面があるが、その箇所を利用して天文を学ぶ方法が考えられる。また井原西鶴の『日本永代蔵』の「世界の借屋大将」は経営を学ぶ教材として利用できるであろう。

CLIL の発想は古典教材を科目横断型の授業にしやすいくという利点がある。古典の文章読解はもろろんのこと、その内容 (content) をもとに天文、福祉、経

営など専門的なことを学ぶように組み立てること、生徒の古文への認知 (cognition) も深まりを見せると考えられる。そこから教員側で課題を設定して、学習集団 (community) の中でその課題に取り組ませ、自分たちのことば (communication) でアウトプットさせていくという学びの流れをつくっていくことができる。CLIL の方法に沿えば、単に協同で訳を考えたり、文章を読むといったことばのレベルの課題ではなく、より内容に沿った高次の課題を設定することになる。

今回 CLIL を古典に活かす方法について論じたが、CLIL は古典に限らず現代文にも十分活用できる方法である。今後は自身のこれまでの現代文の実践を CLIL の視点から問い直し、国語科における CLIL の活用について深めていきたい。

(岡山理科大学教育学部准教授)

注

(1) 一九九〇年米国会議下院の公聴会でナイラという一五歳のクウェート人なる少女が、イラクのクウェート侵攻の実状として兵士が赤ん坊を殺害する様子などを涙ながらに語り、それがアメリカがイラクを攻撃する引き金の一つとなった。このナイラは実は

在米クウェート大使館関係者の娘で、クウェートに住んでおらず語った内容も嘘であることが後に明らかになった。

参考文献

石川忠久・内山知也・加藤道理監修 漢詩・漢文教材研究会編 (1995) 『漢詩・漢文解釈講座第3巻 漢詩Ⅲ唐詩・下』昌平社

和泉伸一 (2016) 『アルク選書シリーズ フォーカス・オン・フォームと CLIL の英語授業』アルク

笹島茂編 (2011) 『CLIL 新しい発想の授業—理科や歴史を外国語で教える!—』三修社

札楚和男 (2011) 『「国語」としてできること』高校生活指導研究協議会編『高校生活指導』第191号冬季号 (青木書店) 20頁

27頁

札楚和男 (2014) 『「方丈記」を使った国語科と地歴科による協同授業の試み』京都教育大学附属高等学校研究部編『研究紀要』第87号 (京都教育大学附属高等学校) 43頁・49頁

(通釈) 新豊生まれの、腕を折ったじいさん 国境地帯の軍功を戒める

(漢詩・漢文教材研究会編一九九五「通釈」に基づく)

新豊生まれのじいさん、年は八十八才。頭髮も鬢も眉も鬚も、みんな雪ように真っ白だ。玄孫にからだをささえられて、店先のほうへ歩いて行く。左の腕は玄孫の肩にすがり、右の腕は折れている。じいさんに「腕が折れてから何年になりますか」と尋ねてみた。さらにまた「腕が折れてしまったのは、一体どういうわけのですか」と尋ねてみた。じいさんは言った。わたしの本籍は新豊県に属しています。玄宗皇帝のすぐれた御世に生まれあわせて、戦などありま

せんでした。宮廷楽隊の演奏する歌声や管弦の音楽に聞き慣れ、戦争で使う旗や槍や、弓や箭などは知りませんでした。

ところが、ほどなくして天寶の世となり、大がかりな徴兵が行なわれ、一軒の家に三人の若者がおれば、その中の一人が兵に徴集されました。兵隊にとられ、追いたてられて、一体どこへ行くのでしょうか。五月の暑いさかりに、万里のかたの雲南へ行くのです。人のうわさでは、雲南には濾水という川があつて、真夏の山椒の花が散るころには、川面から毒気が立ちのぼるのとのこと。大軍がこの川を徒歩で渡ると、水は湯のようにわきかえり、渡りきれないうちに、十人のうち、二、三人は死んでしまつと聞きました。村の南からも北からも、泣き叫ぶ声が哀しげに聞こえてきました。息子は父母と別れ、夫は妻と別れなければならなかつたのです。みんな口々にこう言つてました。これまで南蛮の征伐にむかつた兵隊は、千人も万人も出征して行つたが、一人も帰つてきたものはいなかつた。その時、このわたしの年齢は二十四でした。お役所の兵籍の帳簿には、わたしの名前が載つていました。そこで夜ふけに、人に知られないようにして、こっそりと大きな石で腕をたたき折りました。こうすれば、弓を引くことにも旗をふることに役にも立ちません。そうしてやつと雲南への出征を免れました。骨が砕け筋肉が傷ついたのは、苦しくないはずがありません。しかしともかくは、兵隊名簿の中から選別され、除外されて、故郷に帰るためでした。腕が折れてからこれまで六十年。一本の腕は使ひものにならなくなりましたが、この身はこうして無事でいます。今でも風雨の曇つて寒い夜には、夜明けまでもずっと痛くて眠れません。痛くて眠れませんが、後悔することはありません。なにはともあれ、老いたこの身が今なお一人、こうして生きてゐることを喜んでいます。さもないければあの時、濾

水の川辺で、この身は死んで魂は孤独にさまよい、骨も拾われず、きつと雲南の地に望郷の幽鬼となつて、万人塚のあたりで悲しげに泣き声をたてていたことでしょう。

老人のこのことばを、どうかあなたは、よく耳にとどめておいてほしい。あなたは聞いていよう、開元時代の宰相の宋開府が、国境地帯での軍功に恩賞を与えず、無用の戦で武徳を汚すことを防いだことを。またこうも聞いていよう、天寶時代の宰相の楊国忠が、天子の恩寵を得ようとして、国境地帯での軍功を立てようと兵を進めたことを。しかし、軍功が立てられないうちに、人民の怨みが湧きおこつたのだ。詳細を知りたいならば、どうか、新豊の腕を折つたじいさんに尋ねてくれ。